

ああ 遠くの空は 晴れている



NO6

南箕輪村教育委員会

今回は、12月の定例議会で質問された 「不登校に関する教育長の考え」 を報告します。

質問順位5番 議席番号9番 唐澤由江 議員

件名 5 「いじめ・不登校対策を」

(1) 「古くて新しい課題」である「いじめ・不登校」に対する新教育長の考えは。

「答弁の要旨」 尾形教育長

○ いじめに対する私の考えを3点述べます。

1つめは、いじめを生まないために、一人ひとりの子どもの「心を鍛える」ことが大切であると考えます。子どもたちは、クラスの友だちや部活動の仲間と助け合って生活をしていきます。助け合うということは、人間にとって大切な心がまえです。「思いやりの心をもつ」と言ってもいいでしょう。

「思いやりの心を持つ」ことは、大切ですが、この心は、自然と備わるものではありません。私たちは、訓練してそれを身につけなければなりません。その訓練とは、例えば、友だちが辛い思いをしているときに、「さぞかし辛かっただろうな」と感じる気持ちを、自分の中で作りあげ、共感性を高めていく。自分に都合良く物事が進んでいるとき、その陰で悲しい思いをしている人はいないか、あたたかな まなざしで周囲の人の気持ちに思いを寄せてみる。人の悪口・陰口は言わない、そういう人間になる といったことをその都度、心がけていけばよいわけです。

日々の生活場面の中で「思いやりの心をもつ」訓練をし、温かい気持ちをもって人と接していくことを通して「心を鍛えたい」と思います。

村報 みなみみのわ で、子育て情報「あたたかな まなざしで」というコーナーを設けました。12月号、2月号、4月号と偶数月に掲載される予定です。これは、子どもも大人も「思いや

りの心」をもって、日々暮らしてほしいと願い、そのために心がけたいこと、大事にしたい見方や考え方を共に考えていきたいと思ったからです。

2つめは、いじめが起きた時の対処の仕方です。

教職員や大人は、子どもの表情や子ども同士の関係性において、常に「異変に気づく目」を持ちたいと思います。何かおかしいなと感じたら、個別に呼んで、事情を丁寧に聞き、辛いこと・嫌なこと・悲しいことを把握し、いじめであると判断した場合は、早めに、的確に、チームを組んで、その解消に全力で取り組むことを何よりも優先したいと考えます。

いじめを受けた子どもの心身の安全を守ると共に、いじめをしていた子どもへの指導においては、いじめをした行為の原因となった心理的な背景を見つめ直し、相手を攻撃して自己満足感や優位性を得る自己中心的な考え方を、悔い改められるようサポートし、どんな心持ちで生活すれば相手を傷つけずに、互いに幸せに過ごせるか問い、自己決定させていく、そんな支援を粘り強く行うよう学校現場に求めたいと思います。

3つめは、お互いが居心地のよい「温かい学級」をみんなで作り上げていくことです。そのためにも、お互いが凸凹した存在であることを認め合い、違いを受け入れながら、他者理解していく、そんな気持ちを日々の授業や学習活動を通して醸成していくことが肝要と考えます。大きなおでん鍋のように、いろいろな食材がお互いの味を出したり吸収したりして、全体として1つの豊かな味わいを創り出している、そんな温かいクラスを目指したいと思います。

各担任には、スーツケースの型にはまった自分の考え方を押し付けたり、その中に子どもを押しこめようとするのではなく、心の風呂敷を大きく広げて、多様なタイプの子どもたちを包み込んでいく、人間味あふれる教師力をもってほしいと願います。

人は、人と人の中で成長していきます。せつかく出会った仲間たちです。無視をしたり、傷つけたりするのではなく、思いやりの気持ちを持ち、支え合い、学び合って、お互いの良さと可能性を伸ばしていく、そんな学校であってほしいと強く願います。